

平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」（松阪市）の概要

10月22日（水）に松阪市の「飯南局舎『和み』」で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「飯南局舎『和み』」関係者の皆さん8名の方に集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

（活動紹介）

- 「飯南局舎『和み』」は、昭和7年に建設された建物で、平成元年まで郵便局として使われていた。たまたま通りかかったところ、売りに出されており、素晴らしい建物だと思って買い取り改修した。平成23年1月、国の有形文化財として、三重県で100番目の登録文化財となった。同年11月には「松阪紀勢界隈まちかど博物館」にも認定され、地域の皆さんが集まれる出会いと触れ合いの場として様々な地域活動が行われている。
- 主な活動としては年2回、「飯南、ええやん、手づくり市」と3月（旧暦）「思い出のひなまつり」を開催している。その他、「作品展」として、伊勢型紙、ちぎり絵、お花、華展、パッチワーク、縮緬細工の展示会などを行っている。
- 婚活が進むよう「おせっかいプロジェクト」というのを作って、飯高町波瀬の女性グループ「櫛田川セレブの会」と一緒に「縁結びの会」も開催した。

**Q この活動に参加して、良かったこと、楽しかったこと、嬉しかったことなど自慢話
はありますか？**

館長として、ここ（飯南局舎「和み」）に来る皆さんが私の自慢である。この建物のお陰で、この素晴らしい地域（飯南）を知ることができたので、この建物に出会えたことが一番の自慢である。

櫛田川「セレブの会」は、まず、住みやすく、暮らしやすい地域づくりを目指して立ち上げた。暮らしやすくするにはコミュニケーションが大切であり、人と人との出会いや輪が広がって地域づくりにつながればいいと思い活動をしている。

若いお母さん方が別の会を立ち上げたが、会同士忙しい時には手伝ってあげるなどしてつながりができた。今は楽しく活動をさせてもらっている。

陶芸教室ではとにかく褒めてあげる。だから皆さんは楽しいようで休む人がいない。それと、この活動を通じて新しい友達がたくさんできたということが大きな事だと思っている。

ここ（飯南局舎「和み」）まで来るのに 30 分程度かかり、最初は遠いと感じていた。しかし、今は皆さんと活動を重ねてきて、近くに感じるようになった。

ものづくりは人づくりと言われるが、一つのことを極めていく中で、みんなが楽しく作っている。家でいろいろなことがあって落ち込んでいても、ここへ来ると元気になって帰っていく。着物だけではなく、人間のリフォームにもなっていると思っている。

紀州藩札の銀札（松阪銀札）として使用されていた深野紙を後世に伝えようと保存会を立ち上げ、ボランティアで頑張っている。3 年ほど前からは、地元の子も達が、自分たちでこの深野紙を漉いて卒業証書を作るようになった。卒業証書は校章のすかしも入っている立派なもので我々にとっても自慢である。

柿野住民協議会は横野と横谷、深野と 3 地区が一緒になった住民協議会である。当初はそれほど交流もなかったが、「和み」の輪、「会話」の輪などが次第にでき、皆さんが集まると笑顔になって、話しがはずむようになり、よかったと感じている。

**Q この活動をより良くするためにこんな課題があるとか、課題を共有し、次なる飛躍
に向けてどうつなげていくかなどありませんか？**

役員 24 名だけのまちづくりではいけないと思っている。しっかりと次の皆さんにバトンタッチができるようにしていくことが大事と考えている。

「美し国三重」の「ひな街道」が旧松阪まできているが、ここでひな祭りをしてるので、飯南地域まで入れてもらいたい。せめて宣伝だけでもその中でお願いしたい。

街道文化や産業、深野紙など、飯南地域は素晴らしところなので、皆さんに PR してもらい、たくさんの人に来てもらい、町を活性化につなげていきたい。

この地は交通の便が悪い、櫛田川に沿って家が建っているが、高齢者も多く、ここで暮らしていくには住民だけでは難しいところである。今日、知事がここまで来て現場を見ていただいたが、現場を見るということが大切なので、行政の方も現場を見るということをお願いしたい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事から次のような発言がありました。

役員だけのまちづくりではいけないというのはそのとおりなので、うまくつないでいくような形が必要である。

情報発信については、県の方でも情報発信のプラットフォームのような基盤を作っていきたいと思うので、何を伝えたいかは皆さんで話し合っただけで考えてもらいたい。県も皆さんの取組が加速していくような、広がっていくようなサポートをしっかりとしていきたい。

交通手段については、市内だと国から補助が出ており、市で基本的にコミュニティバスをやっているの、市の中でやっていただくことになる。市の範囲を超えるものについては、県の方で支援メニューがあるが、まず、コミュニティの中や市の中で考えていただき、それを県と相談していただければと思う。

行政にとって、書類上だけではわからないことがあるので、現場を見ることは大事なことである。



【「飯南局舎『和み』」関係者の皆さんとは】

飯南局舎『和み』は、旧飯南郵便局舎を改装した建物（名称：飯南局舎「和み」）に集まる皆さんが手づくり市や地元のお茶を楽しむ会、料理の研究会等を開催するとともに地域の魅力を情報発信している団体です。

会場は、1932（昭和7）年に建てられたレトロモダンなコンクリート造りの建物で、国の登録有形文化財（建造物）に指定されています。